

令和3年 火災発生概況

令和3年中における当消防本部管内の火災発生件数は、23件（前年同数）となっており、建物火災13件（前年比1件増）、林野火災0件（前年比1件減）、車両火災4件（前年比2件減）、その他の火災6件（前年比2件増）となっています。

町別では、遠軽町で10件（前年比4件減）、湧別町で7件（前年比2件増）、佐呂間町で6件（前年比2件増）の火災が発生しています。

火災損害状況については、建物焼損床面積2,259㎡（前年比614㎡増）、建物焼損表面積43㎡（前年比56㎡減）、林野焼損面積0a（前年比5a減）、車両焼損台数6台（前年比1台減）で、損害額は103,129千円（前年比42,585千円増）の大変貴重な財産が失われ、また、火災による負傷者は4人で、死者は7年ぶりに0人となっています。

月別では、4月と7月に4件の火災が相次いでおり、最も少ない月は12月の0件で、春から秋にかけて多くの火災が発生しています。

用途別では、建物火災のうち養畜舎火災が4件と最も多く、次いで住宅火災が3件となっています。また、その他の火災では、敷地等が4件となっており、その全てがごみの不適切な処理によるものとなっています。

原因別では、ごみの不適切な処理に次いで、機器の清掃や点検等を日常的に行うことで未然に防ぎえた火災が多く、今一度、一人ひとりが防火意識を高めていく必要があります。

当消防本部管内の住宅用火災警報器設置状況は、約8割の世帯で設置され、そのうち約4割が設置から10年以上が経過し、機器の交換時期を迎えています。さらに設置世帯の半数で作動確認を行った結果、約3%の世帯で電池切れや故障が確認され、今後、多くの世帯が交換時期を迎えるなか、適切な維持管理が行われていない場合、住宅火災における死者数が再び増加に転じることが懸念されます。

今後、消防機関といたしましては、より一層の住宅防火対策の推進、火災予防啓発活動の強化を図るとともに、住民一人ひとりの防火意識の高揚に努めるものであります。

近年の火災発生状況（令和元年～令和3年）

年別	出火件数							焼損状況				損害額 (千円)	死者	負傷者	焼損棟数	り災世帯数	り災人員数	
	建物				林野	車両	その他	合計	床面積 (㎡)	表面積 (㎡)	林野 (a)							車両 (台)
	全焼	半焼	部分焼	ぼや														
組合管内 R3	5	2	4	2		4	6	23	2,259	43		6	103,129		4	17	6	12
R2	7	1	1	3	1	6	4	23	1,645	99	5	7	60,544	1	1	17	8	12
H31/R1	5	1	4	4	1	5	9	29	1,178	162	90	6	132,990	2	5	18	8	15

身近にある火災の原因

放火・放火疑い

家の周りに置かれた不用品やごみステーションなどに放火される火災が全国各地で発生しています。普段から放火されない環境作りを行いましょ！



たばこ



たばこの小さな火種は、小さな火でもくすぶり続け、数時間経過してから燃え上がることがあります。たばこの始末は喫煙者のマナーです！

コンロ

鍋を火にかけていることを忘れてしまい、気づいたころには鍋から炎が上がり、火災に至るケースが特に多いです。火のついたコンロから離れるときはしっかり火を消しましょう！



電気

電気配線のショートやトラッキングによりコンセントから出火することがあります。定期的に清掃を行いましょ！



火遊び



ライターやマッチは子どもの手の届かないところで保管しましょう！小さな子は好奇心旺盛なので特に注意しなければなりません！

ストーブ

ストーブの周りに燃えやすいものは置いていませんか？また、適切に使用できていますか？ストーブから火災に至るケースは毎年のように発生しています！ご自宅のストーブを今一度、点検しましょう！

